

科目名	臨床心理学特論			ナンバリング	858000	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	通年	科目分類	必修	単位数	4 単位
代表教員	山本佳子○	担当教員	窪田文子○				

授業の概要	臨床心理学の起源と現況を知り、その人間論、科学論、心理療法論の統合的な課題に対して、その問題性の検討を行う。そして人間への援助アプローチの独自性と課題について理解する。						
到達目標	1. 臨床心理学の基本となる成り立ちを理解し、姿勢・倫理を身につけることを目的とする。 2. 臨床心理学の学問の特徴と臨床心理士の専門性について説明することができる。 3. 他業種との連携の仕方、役割分担の形式の種類と特徴について説明することができる。 4. 様々な臨床の場で用いることのできる基本技法を身に着ける。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	前期:授業後、講義に出てきたキーワードについて調べ、内容を確認しておく。また、講義内容の中から重要だと思う部分について、自分の意見と共にレポートにまとめ、提出する。 後期:毎回指定されていた資料を熟読し、ポイントを自分の言葉でまとめるようにすること。そして、それらについて、他の履修者とディスカッションができるように準備してくること。						
ディプロマポリシーとの関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
		3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
臨床心理学のそれぞれの領域について、歴史・概要・課題を知り、問題点について論点が理解できる。 臨床心理学の基本的な援助アプローチの概要がわかる。	臨床心理学のそれぞれの領域について、歴史・概要・課題を知り、問題点について論点が理解できる。 また、根拠に基づく自分なりの意見を展開することができる 臨床心理学の基本的な援助アプローチの概要がわかり、実践のための必要十分な条件も判断した上で、使うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート		○			○		10%
宿題・授業外レポート	○		○		○		40%
授業態度・授業への参加			○	○			50%

課題、評価のフィードバック	レポートは、要請があればいつでも開示できるよう準備しておく。
---------------	--------------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	臨床心理士の現況	臨床心理学を生かす道の一つとして、「臨床心理士」の現況について知り、自分の希望を吟味し、今後の自分の課題を発表できる。	
	第2回	臨床心理の判断基準	正常と異常の判断基準・DSM診断基準について理解し、説明できる。	
	第3回	アセスメント	心理アセスメントについて、その重要性・視点・手続きの概要を理解し、その意味と留意点を説明できる。	
	第4回	心理臨床家と他専門職種	心理臨床家とOT・PT・ST・看護師・PSWなどの関係について理解し、概説できる。	
	第5回	心理臨床家と医師	心心理臨床家と医師との関係について理解し、その役割や方法論の違いと業務の類似性、協力体制の作り方について概説できる。	
	第6回	病院臨床①	精神疾患患者・その家族に対して行われる「心理教育」について理解し、その意義と目的・方法のポイントを説明し、簡単な教材をつくることことができる。	
	第7回	病院臨床②	主に精神障害者に対して行われるソーシャルスキル・トレーニングの目的と方法について理解し、その必要性について説明できる。	
	第8回	病院臨床③	ソーシャルスキル・トレーニングについて、対象者の特性に対応するための様々な応用的手法について理解し、リーダーとして試行することができる。	
	第9回	病院臨床④	精神障害を持つ当事者のエンパワメントについて配慮する意味を理解し、主体性を持った病気への対応法や支援者としてのサポートの仕方を提案できる。	
	第10回	諸援助施設における心理臨床①	総合病院における心理臨床について理解を深め、概説できる。	
	第11回	諸援助施設における心理臨床②	小児科における心理臨床について理解を深め、概説できる。	
	第12回	諸援助施設における心理臨床③	大学・専門学校・予備校等の高等教育機関における心理臨床について理解を深め、概説できる。	
	第13回	諸援助施設における心理臨床④	養護施設・福祉施設における心理臨床について理解を深め、概説できる。	
	第14回	諸援助施設における心理臨床⑤	教育センター・学校における心理臨床について理解を深め、概説できる。	
	第15回	諸援助施設における心理臨床⑥	産業カウンセリングにおける心理臨床について理解を深め、概説できる。	
	試験	適宜レポートを課すため、試験は施行しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	臨床心理学の枠組み	臨床心理学の定義と枠組みについて概観し、その内容について説明できる。	
	第17回	臨床心理学の独自性	臨床心理学の対象や専門性、領域などについて理解し、概説できる。	
	第18回	臨床心理学の歴史	臨床心理学の成立過程を理解し、その時代ごとの課題となったことがらを元に説明できる。	
	第19回	臨床心理士の養成	諸外国の養成システムの在り方を理解し、自らの行く末を含めて課題を説明することができる。	
	第20回	臨床心理の資格問題	諸外国の資格制度と、日本の公認心理師制度を比較し、自らの課題を明らかにする。	
	第21回	治療教育の意義	臨床心理学の対象論としての治療教育の意義を理解し、今後の方向性について説明できる。	
	第22回	予防的援助	公衆衛生の視点から、臨床心理学における予防的支援について、様々な水準の活動を理解し、実践計画を立てることができる。	
	第23回	こころの問題への援助	精神医学的心の問題に対する、臨床心理学の立場からの支援について理解し説明できる。	
	第24回	臨床心理の専門性	対人援助者として、臨床心理の専門性について理解し、説明できる。	
	第25回	臨床心理の方法論	臨床心理の洗面的援助の方法について理解し説明できる。	
	第26回	臨床心理の現状と課題	諸外国の臨床心理学の課題を概観し、日本の臨床心理学の課題について考え、発表できる。	
	第27回	臨床心理学の展望	諸外国の臨床心理学の発展のプロセスや制度の違いを考慮した上で、日本の今後について、自分の考えを持ってディスカッションできる。	
	第28回	心理臨床家の倫理の基本	倫理基準の必要性について、日本心理臨床学会倫理綱領と日本心理臨床学会会員のための倫理基準について理解を深め、心理臨床家としての基本倫理を述べることができる。	
	第29回	心理臨床家の倫理の実際1	心理臨床の現場で起こる倫理的問題について判断のポイントを上げることができる。	
	第30回	心理臨床家の倫理の実際2	心理臨床の現場で起こる倫理的問題についてグループでのディスカッションを通して判断の根拠を明らかにした上で、葛藤場面でも正しい判断基準を述べることができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		前期:配布資料を基に講義とディスカッションで構成する。 後期:指定した資料をまとめ、履修者相互でディスカッションするテーマを持ってくる。授業では、履修者各自のディスカッションテーマについて意見交換をし、理解を深める。		
授業外学習の指示		前期:授業中に出す課題のレポートは次回までに完成させて提出する。その他にも、講義内容の復習を中心に、授業の要点の整理や各自資料を調べ、補充しておくこととする。後期:授業前は、指定した資料を熟読し、まとめてくる。授業後は、ディスカッションを振り返り、気づいたこと、考えたことをまとめる。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	前期:使用しない。 後期:大塚義孝(編)(2004)臨床心理学全書1 臨床心理学原論. 誠信書房
参考書	前期:授業中に適時紹介
参考URLなど	
その他	